

山口情報芸術センター [YCAM] : 演劇公演

チェルフィッチュ

新作公演「ゾウガメのソニックライフ」 作/演出: 岡田利規

2011年3月13日(日) 14:00 開演(30分前開場) ※終演後にポストトークを開催

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

**3年ぶり2度目。チェルフィッチュの待望の新作公演が、YCAMに。
現在を生きる人々の感情を、ユーモアとともに描く最新作。**

山口情報芸術センター [YCAM] では、現代のパフォーミングアーツ・シーンに多大な影響を与え続ける演劇カンパニー、チェルフィッチュの待望の新作公演を、神奈川芸術劇場、水戸芸術館 ACM 劇場との共同プロデュースにより開催いたします。演劇の新しい方法論を常に模索し、現代の若者を象徴するようなセリフ、日常的な所作を誇張するような身体性をもった作品で、国内外で高い評価を得るチェルフィッチュ。主宰のおかだとしき岡田利規は、2007年にYCAMで上演した「三月の5日間」で岸田國土戯曲賞を受賞し、以降も小説デビューや、著名作の演出、戯曲提供など、現在の演劇界を代表する作家として活躍しています。

3年ぶり2度目となる今回のYCAMでの新作公演では、現在の日本に潜む不安感や現代人の感情を巧みに描き出すチェルフィッチュの新展開、パフォーミングアーツの現在形を紹介いたします。

チケット情報 [チケット発売: 2011年1月8日(土)]

料金: (全席自由)

前売 一般2,800円 / any 会員・特別割引2,500円 / 25歳以下2,000円

当日 3,300円 ※当日は各種割引対象外

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただきますよう、よろしくご願ひ申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当: 廣田

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



参考写真: チェルフィッチュ「ホットベッパ、クーラー、そしてお別れの挨拶」
(Hebbel Am Ufer, ベルリン, 2009) ©Dieter Hartwig

関連イベント

岡田利規演劇ワークショップ

「フツウはヘン、ヘンはフツウ ～ふだんの自分自身から学ぶ～」

3月6日(日) 14:00-19:00 料金: 1,000円

対象: 高校生以上～一般

定員: 10名(応募者多数の場合は、抽選となります)

※応募方法や詳細については、4ページ目をご覧ください。

■ウェブサイト <http://zougame.chelfitsch.net/>

チェルフィッチュ — 現代日本にある感覚を巧みに描き出す。

代表作「三月の5日間」から約4年 — 。チェルフィッチュの新たな展開。

YCAMで2007年4月に上演した、チェルフィッチュ「三月の5日間」(2004年)は、第49回岸田國士戯曲賞を受賞し、欧米の主要フェスティバルからも招聘されるなど、2000年代の演劇を代表する作品として記憶されています。作品に登場する俳優の独特なムーブメント、「超リアル日本語」と称される台詞は演劇界に衝撃をもたらし、その独特の方法論は、常に注目を集め続けています。主宰の岡田利規が巧みに描き出す、日本の現在の状況や若者の感情、そして従来の「演劇」にはない新たな作品の構想は、演劇シーンのみならず多彩な分野で評価されています。

1997年の設立以来、常に新たな表現に挑み続ける彼らの作品は、前作「わたしたちは無傷な別人である」(2010年)でも、大きな変化を遂げています。そこには、チェルフィッチュの特徴とされるリアルな若者言葉と身体性を脱却し、観客へと直接響く「言葉」と、ステレオタイプの「演技」を排した役者の身体が見られます。観客の想像力によって演劇が完成することを示す前作に続き、今作「ゾウガメのソニックライフ」でも、その方法論のさらなる展開が期待されます。



チェルフィッチュ「三月の5日間」(YCAM Performance Lounge #1, 2007)

チェルフィッチュ

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。チェルフィッチュ(chelfitsch)とは、自分本位という意味の英単語セルフフィッシュ(selfish)が、明晰に発語されぬまま幼児語化した造語であり、現代の日本、特に東京の社会と文化の特性を現したユニット名。2001年発表の「彼等の希望に睨れ」を契機に、現代の若者を象徴するような口語を使用した作風へと変化。さらに、「マンション」、「三月の5日間」(第49回岸田國士戯曲賞受賞作品)などを経て、日常的所作を誇張しているような／していないようなのだららとしてノイジーな身体性を持つようになる。その身体性は時にダンス的とも評価され、2005年「クーラー」で「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005～次代を担う振付家の発掘～」最終選考会にノミネートされた。2007年ヨーロッパ・パフォーミングアーツ界の最重要フェスティバルと称されるKUNSTENFESTIVALDESARTS2007(ブリュッセル、ベルギー)にて「三月の5日間」が初めての国外進出を果たす。その後、アジア、欧州、北米にて海外招聘多数。また、国立国際美術館30周年記念公演(大阪)、森美術館主催「六本木クロッシング2007：未来への脈動」展(東京)、横浜トリエンナーレ2008(神奈川)、Nam June Paik Art Center(ギョンギ、韓国)、あいちトリエンナーレ2010(愛知)など、美術展でも作品を発表し、演劇のみならず多方面から高い注目を集めている。



チェルフィッチュ
「ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶」
(Hebbel Am Ufer, ベルリン、2009) ©Dieter Hartwig

新作公演「ゾウガメのソニックライフ」

現代に生きる私たちが感じる、焦燥感と閉塞感。

生きているという実感の希薄さ、未来への期待に相反する焦燥感—。本作「ゾウガメのソニックライフ」は、現代の日本で暮らす誰もが、時に切実に感じる、こうした感覚を切り取った演劇作品です。

主人公は、東京で暮らすひと組のカップル。彼らは、心から満たされた人生を送りたいと思いつつも、そこに辿り着くことができない現実に困難を感じています。ありふれた日常の中、今現在を生きることに不自由ないにも関わらず、常に感じ続ける閉塞感。その理由を見つけるために、彼らは、自分に起こりえた、そして、起こるかもしれない、別の選択肢を想像します。

本作に登場する主人公の「ここではないどこか、別の人生があるとしたら」という想像と、その深層にある不安感やどうしようもなさ、現代に生きる私たちの感覚の断片かもしれません。そんな誰しもが抱く感情が、作品を通じて観客の中に降り積もり、ひとつの「演劇」が完成します。



チェルフィッチュ 新作公演「ゾウガメのソニックライフ」
フライヤー

新作公演「ゾウガメのソニックライフ」について 岡田利規

満ち足りた人生を送りたいものです。それには結局日常が大切です。物語の主人公(男女のカップルです)が、そう考えているのです。けれども、満ち足りた生、それは余りに遠くて、そこに届くのはほとんど絶望的です。そう考えるのが現実的です。そこで、ここは思い切って、こう考えることにしてみましょう。いや、ぜんぜん遠くなんか無い、と。

たとえば、世界じゅうの出来事にヴィヴィッドでいようと、がんばって努めていけばいいような気がする。だって、誰の日常も、その日常よりもずっと大きなスケールを持つ何かと、絶対につながっているのだから。それを心から実感すること、そして、その実感を長く維持しておくことはとても難しい、ということとはりあえず措いておいて。

「ゾウガメのソニックライフ」は、わたしたちが感じているうんざりさ(および、その主な要因である社会)に、どこかしら普遍的なものがあることを、せめてものことと信じて、つくられます。

演出家プロフィール

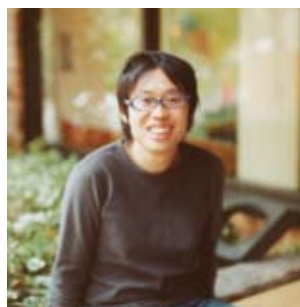


photo: Nobutaka Sato

岡田利規 | Toshiki Okada

演劇作家/小説家/チェルフィッチュ主宰

1973年、横浜生まれ。1997年に「チェルフィッチュ」を結成。2004年発表の「三月の5日間」で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。2005年横浜文化賞・文化芸術奨励賞受賞。2007年神奈川文化賞・スポーツ賞において文化賞未来賞を受賞。2007年2月新潮社よりデビュー小説集「わたしたちに許された特別な時間の終わり」を発表、翌年第二回大江健三郎賞受賞。安部公房の「友達」やテア・ローアーの「タトゥー」の演出を手がけ、その独自の解釈が多く注目を集める。より遠くに行ける可能性のある作品を生み出すため、独自の方法论で演劇作業を実践している。チェルフィッチュでの活動のほか、他劇団への戯曲提供も多数おこなっている。

関連イベント

■ 岡田利規演劇ワークショップ「フツウはヘン、ヘンはフツウ ～ふだんの自分自身から学ぶ～」

3月6日(日) 14:00-19:00 講師：岡田利規

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

料金：1,000円 定員：10名 ※要申込

対象：高校生以上(演劇経験者、未経験者を含む一般を対象としたワークショップ)

日常的なしぐさや話し方を見つめ直し、そこに潜む「ヘン」に気づく。
岡田利規の独特の方法論に触れるワークショップ。

私たちが日常的に、かつ無意識におこなっている仕草やしやべり方を見つめ直し、岡田利規の演劇の創作方法やその方法論に触れるワークショップ。

参加者は、自分の言葉で自らのエピソードを語り、更に、他の参加者により、そのエピソードを再現します。自分の〈口癖やしぐさ〉を再確認することで、自身の不思議で面白いしやべり方や動きを発見します。私たちが何の疑いもなく「フツウ」と考えていることの「ヘン」さに気づき、そのおもしろさを体感するワークショップです。

申込方法：

申込受付期間：2011年1月8日(土) - 2月13日(日)必着

往復はがき、FAX、e-mailにて、下記項目をご記入の上、お申し込みください。

①名前(ふりがな) ②性別 ③生年月日(保険適用のため)
④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号、FAX番号等連絡先

応募先：

山口情報芸術センター 岡田利規演劇ワークショップ係
〒753-0075 山口市中国町7-7 FAX: 083-901-2216
e-mail: workshop10@ycam.jp

※お申し込み多数の場合は抽選となります。

※抽選結果は2月下旬頃、返信はがき、FAX、e-mailにてお知らせします。

開催概要

山口情報芸術センター [YCAM]：演劇公演

チェルフィッチュ 新作公演「ゾウガメのソニックライフ」

2011年3月13日(日) 14:00 開演(30分前開場)

※終演後にポストトークを開催

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

※上演予定約90分

ウェブサイト <http://zougame.chelfitsch.net/>

主催：財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

助成：財団法人地域創造

平成22年度文化庁芸術拠点形成事業

企画：precog

企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]、神奈川芸術劇場、水戸芸術館ACM劇場

作/演出：岡田利規

出演：山縣太一、松村翔子、足立智充、武田力、佐々木幸子

美術：トラフ建築設計事務所

照明：大平智己

音響：大久保歩

舞台監督：尾崎聡

宣伝美術：菊地敦己、小金沢健人

特設ウェブデザイン：石黒宇宙

特設ウェブ編集：中島良平

■ ツアースケジュール

2011年

2月2日(水) - 15日(火) 神奈川県(神奈川芸術劇場)

2月26日(土)、27日(日) 茨城県(水戸芸術館ACM劇場)

3月4日(金)、5日(土) 埼玉県(富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ)

チケット情報

チケット発売：2011年1月8日(土)

料金：[全席自由]

前売 一般2,800円/any 会員・特別割引2,500円/25歳以下2,000円

当日 3,300円 ※当日は各種割引対象外

電話/窓口：

山口市文化振興財団チケットインフォメーション(YCAM内)

083-920-6111 (10:00-19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

インターネット：

<http://www.ycfcp.or.jp/> (24時間受付 ※要事前登録)

■特別割引：シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。

■未就学児入場不可

■公演託児サービス

対象：0才(6ヶ月)以上

託児時間：開演の30分前から終演30分後まで

料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：3月6日(日)までに、左記チケットインフォメーションまでお申し込みください。

■車椅子席・補聴システム：事前にお問い合わせください。